

広報 たかもり

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②0611 [代表]

人口

— 3月31日現在 —

人口 9,956人男… 4,778人

女… 5,178人

世帯数 …………… 2,599

転入 82 出生 8

転出 225 死亡 13



としておくと役立ちます

第177号
昭和49年

5月1日

おもな内容

町の主要道整備急ピッチ……………(2)
草部簡易水道施設が完成……………(3)
県観光審議会が休暇村予定地を視察……………(3)
野尻小の創立百周年記念式典……………(4)
高森その歴史・みんなの説法……………(5)
ミニだより・奥さまインタビュー……………(7)
町民文芸・おめでたおくやみ……………(8)

姿消す高森線のSL

国鉄高森線のSL(蒸気機関車)C12型は、客車を引いている機関車では全国でも最も小型で有名ですが、さきの国鉄ダイヤ改正でディゼル化され、姿を消すことになりました。このC12型は立野から高森までの十七・七キロを客車二両を引いて一日四往復。広大な外輪山に囲まれた南郷の田園地帯をのんびりと走り、のどかなローカル線として多くの鉄道ファンに親しまれてきました。

町では、このほど熊鉄局との交渉で、記念にC12型機関車を無償貸与してもらうことが決まったため、現在の高森駅前広場を整備して永久に保存する計画を進めています。



▷ 5月5日
馬原医院 高森 ②0646

▷ 5月12日
東 医院 高森 ②0309

▷ 5月19日
寺崎医院 高森 ②0378

▷ 5月26日
小林医院 高森 ②0075

町の主要道整備急ピッチ

町内を走る国道二六五号線と三三五号線は、ことしの三月までに一部の区間を除き、ほとんどの舗装が完成。快適なドライブウエイとして日増しに車の量が多くなっています。県道も順次、道幅を広くしたりして改良が続いているところですが、町ではこれらと並んで町道と橋、それに農道や林道も大幅に改良してきました。以下は四十八年度で町が実施した主な道路整備事業です。



改良舗装された色見環状線

49年度に全線舗装 色見環状線 農、林道も逐次改良へ

【色見環状線】 高森、色見、上色見を結ぶ一級町道。火山灰土壌地帯で雨期、冬期には路面の痛みがひどく、四十五年から改良舗装を始めています。三月いっぱいまで小倉原―前原入口間、九百八十坪の工事が終わり、高森駅通りから約四・五キロが快適なドライブウエイに生まれ変わりました。四十八年度の総工費は約二千万円。本年度で全線の舗装が終わります。

【草部農免道路】 農業用の機械トラクタ等を使用したガソリン税の見返りとして、国が大幅に補助している事業で、社倉の国道三三五号線を起点に菅山地区の水湛まで総延長五・二キロを幅四・五メートルに改良します。全体計画は三・四キロ。工事は昨年八月から始まっておりこれまで工費二千二百万円で古畑部落までの千二百坪が改良されました。

【天神―前原線】 畜協東側から専売公社住宅入口を経て、町営プールに抜ける天神―前原線は四十七年度から本格的に舗装を開始。四十八年度では畜協先きから町営プールまでの五百四十坪が幅三・三メートルに舗装されました。工費は四百四十六万円。



【須坂―尺司線】 地方改善事業費は四百四十六万円。鍋の平キヤンプ場へ通じる前原―日ノ尾峠線は、最近、観光客の利用が多くなりました。このため、村中三百二十五坪を工費五百二十万円で行方不明の舗装しました。

交通安全の黄色帽

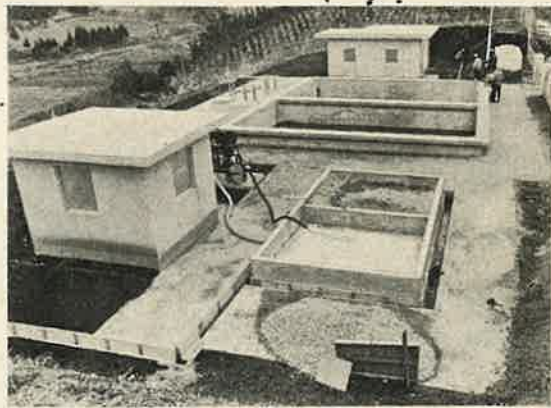
新入生らにプレゼント

「新入生を交通事故から守ろう」と、町では入園式を迎えた町内の保育園、幼稚園のよい子たちに鈴つき交通安全リボンをプレゼント。また、小学校の一年生にも黄色の帽子、ランドセルカバー、腕章などを贈りました。リボンは横二・五センチ、縦十一センチの長方形で黄色のビニールに「み

▽高森中学校裏の里木地区は大雨以降るたびに畑や道路が洗われるため高校寮前の農道八百五十坪をかんがい排水路として、幅三・五坪にコンクリート舗装しました。総工費は約千五百万円。▽追加林構事業で実施していた鍋の平線は、四十八年度で六百九坪を幅三・六坪で改良。四十六年から始まったこの事業も本年度で終り、一の宮町からの林道と結ばれます。

「水不足」これで解消

草部南部地区 簡易水道施設が完成



草部農協裏の台地にできたろ過池

飲み水不足に悩んでいた草部南部地区に水を送る「草部地区簡易水道事業」は、四十八年度工事分が完了、四月から本格的な送水を始めました。

この水道事業は草部（木郷、小崎を除く）、芹口、永野原地区など約二百七十戸（千三百人）を対象に、四十七年八月から二年継続事業で始められました。工事は当初予定された町道「横山線」入口の水源地がおもわしくないので下川走の新水源地を旭化成から譲り受けて施工しました。

この水道は年金融資を利用

今回完成した草部簡易水道の工事費のうち、三千五百五十万円は皆さんが加入されて納められており、また国民年金の特別融資（四十七年度二千六百八十万円、四十八年度二千四百七十万円）を受けて

水源地からは一日に約二百トン取水、十五キロワットのポンプで農協裏の台地にできたろ過池までポンプアップ。ここで滅菌、消毒のうえ千八百八十四坪の送水管で、再び登母祖の第一配水池と穴迫稲荷のそばにできた第二配水池に揚水し、自然流下方式で各家庭に給水しています。

主な工事は鉄筋コンクリート平屋建てのポンプ室ほか、緩速ろ過池、九十五立方坪の飲み水を貯蔵する配水池二か所、水源地と配水池を結ぶ約十九坪の導水管の新設、二十三か所の消火栓取付けなどです。総工費は六千九百五十四万二千元を要しました。

自然環境といい最適

県観光 審議会 休暇村予定地を視察

県観光審議会（浦田宇次郎委員長）は、このほど本町と県が一体となって国民休暇村の誘致をすすめている草部高原の建設予定地を現地視察しました。

国民休暇村指定誘致は、県でも四十九年度指定分として環境庁に要望を続けており、さる三月定例

金の性格上、国民の生活に直接役立つような公共施設の整備に融資されています。施設の主なものとして病院やプール、体育館、国民宿舎、簡易水道があります。

以上、簡単に工事資金についてご説明しましたが、今後とも水道事業運営に格段のご協力をお願いいたします。



根子岳や南阿蘇外輪のながめは格別。国民休暇村にはもってこいの適地だ。泉源が見つかればもっといいのだが、などの感想をもらっていました。

ビクニック広場、野営場、修景園地区、乗馬、サイクリングコース、林間散策路などを配し、その中にテニスやバレーボールコートなどの施設を五十四年度までにつくる計画です。写真には休暇村予定地

おめでとう野尻小

盛大に創立百周年記念式典

野尻小学校（植木野不羈夫校長百十三人）の創立百周年記念式典は三月二十一日午後一時から万国旗が張りめぐらされた同小集会所に見守られ、校区民、同窓生来賓など約二百人が出席して盛大に行われました。

国歌斉唱に続き、馬原記念事業期成会会長、植木野同小学校長

のあいさつがあり、岩下町長、松田町議会議長ら来賓が祝いの言葉を述べました。これに先立ち校舎正面玄関前に造られた記念碑の除幕式が行われ、子弟の将来の発展と活躍を願いました。

また、百周年記念事業として期成会では、同窓生やPTAなどの寄付金で、さきの記念碑を建立したのをはじめ校旗、視聴覚教材（OH P・スクリーン・暗幕）、図書など約百六十万円相当を学校へ贈りました。

同小学校は明治五年学制公布とともに、同六年野尻手永会所跡に創立、同十二年公立津留小学校となり、同三十五年高等科が併設され津留尋常高等小学校に改称。さらに大正十二年に尾下、河原の両小学校を併合して野尻尋常高等小学校となり、昭和二十八年十一月に現在の校舎が落成しました。



三十二年の町村合併で町立野尻小学校に生まれ変わり、給食室、へき地集会所、運動場拡張などへき地ながらも内容を整え今日を迎えています。

交通安全のお守り配る

本町では、春の交通安全運動が実施されていた四月十一日高森グリーンボール前の国道三二五号線沿いで、通りがかりのドライバーに高森阿蘇神社のお守りを配って安全運転を呼びかけました。

岩下町長、瀬井助役ほか開田高森署長、山村高森校区婦人会長と交通安全協会高森支部、ボーイスカウト代表など約三十人が出て、トラックや乗用車などをとめ「ゆとりのある運転をお願いします」と高森阿蘇神社の鈴つきお守りと交通安全のマッチ、チラシを運転者一人一人に配りました。

部落ぐるみの保育園が誕生

草部北部地区

草部北部地区に部落ぐるみの保育園ができあがり、四月九日関係者多数が出席して、晴れの入園式

道路愛護の団体個人を表彰

四十八年度道路愛護会表彰式が四月四日畜産センターに各地駐在員、高森署、土木事務所など関係者約百五十人が出席して開かれ、本町の道路行政に功労のあった次の四団体六十八人に岩下町長から賞状と記念品を贈りました。

道路整備や補修作業に自主的に協力した村山、前原、小倉原、菅山津留二区の各駐在区、町の土木行政に側面的に協力した和田一雄巡查長（高森署野尻駐在所）、橋本征

四郎（一の宮土木事務所高森出張所）、河内一男（同）▼災害復旧作業に貢献した古寺久美（尾下）▼用地を無償提供した岩下光明（色見）ほか六十三人。

テングス病退治へ乗り出す

「美しい花を咲かせよう」高森町観光開発促進協力会（山村一朗会長）と町観光課は、四月二十日旧林業工舎敷地のサクラに発生したテングス病（木の枝がトリの巣状になる病気）の退治を始めた。

本町には高森峠の千本桜をはじめとして、各地に公園、神社、お寺などサクラの名所が多く、四月の開花時には一面に花をつけ、訪れる人たちの目を惹きつけています。しかし、近年になって車の増加による排気ガスの影響やサクラのガンといわれたテングス病のまん延で、枯れたり、花を咲かせないサクラの木が目立ち始めました。このため、同協力会と町は、高森峠の整備が始まったのを機会にサクラの名所を維持しようと、サクラの管理に努めており、これは高森中学校の入口にあたる旧林業工舎敷地のサクラの手入れを行ったものです。老木には二十個のテングス病の被害枝がありノコヤカマで切り落としました。

高森の歴史

<14>

執筆 今村俊男

火山信仰と高森の阿蘇社

事で伝わっている。また祈禱仏教の普及とともに、阿蘇山を霊場とする修行場が古坊中に建ち、後に西蔵殿寺となった。春の彼岸に「

に向って宮居の卜矢を放たれ、一矢この地の大石にあたり、ここに宮居を定められた」とある。現御矢村の矢石がそれで、高森阿蘇神

社は「矢村社」という。阿蘇大明神を始め阿蘇十二柱の神を祀り、もと宮山か御矢村にあ

つたのを四百年前、現在地に奉遷したと伝えられている。境内に内宮、外宮を祀り、また高尾山神宮寺という観音堂もあり、神社に神宮寺が建設されたのは奈良時代である。付近に上園古墳群、年弥社などあり、出土品から推察すると八世紀頃の創建ではなからうか。

元禄七年、武田吉右衛門府永勝寄進の大鳥井、石燈籠、享保七年武田元喬寄進の唐獅子、その他神石があり、高森町の総産土神である。

村山祖母神社は、昔は村山阿蘇宮と呼ばれた。祭神は阿蘇十二柱の神に化身した。そして、長者の家の近くで子牛を飼っていたが、その子牛がぼっくり死にました。子供はとて悲しみ、青草を刈ってきては牛の口もとに置き、早く食べないかと叫び続けました。長者

みんなの説法

昔、たくさんお金をたくわえて何不自由なく暮らしている長者がいました。子供は一人しか恵まれなかったので非常な可愛がり方で育てていました。ところが「好事魔多し」の諺どおり、病氣にかかり不埒の人となりました。両親は悲嘆の明け暮れで終日泣きどおしです。

そこで死んだ子供は臨終に念仏した功德で天上界に生まれ、両親を悲しむから救いたと牛

愚痴の罪

や近くの人達も子供を哀れに思っている。お前はどこの家の子だ。いくらそんなにしても死んだ牛はもう何も食べないよ」と慰めました。すると子供は顔をあげ「そうだよ、おじさんこの牛は死んだのだ。もう何も食べないよ」。

長者は道理ある少年の言葉に感じ深く反省し、そして「お前はいいんだこの誰れだ」とたずねると、子供は詳しく一部始終を話し天上界に帰って行きました。

（雑賢諭経）

愚痴の罪

「寸言」 仏さまは「犯してきた過去の罪を恐れることはない。ひとたび回心すれば必ず救う」と。

阿蘇中岳の火口に水がたまって八世紀の頃、火口は神霊池として信仰の対象となり、祭神は建磐龍命（阿蘇大明神）であった。平安朝初期から再び始まった中岳の活動は地方住民をおびえさせただけでなく、朝廷にも国家異変の前兆と受けられ、阿蘇 大宰府、中央と報告され、政府も阿蘇の神をなぐさめるために神事（八四二年）や仏事が行われ、その祭礼をつかさどる神主家は豪族化していた。

阿蘇の神々は火山活動の神であるとともに、農業の神でもあった。これは現在でも阿蘇神社の神

八世紀頃といわれているが、高森の阿蘇社の創建はいつ頃か判然としない。神話によれば「建磐龍命が阿蘇に降られ、湖水だった火口湖を乾かされ、中央の山から南北

高森阿蘇神社（上）と祖母神社（下）

高森阿蘇神社（上）と祖母神社（下）

高森阿蘇神社（上）と祖母神社（下）

町民文芸



俳句 菜の花句会

高森峠花見句会(四月十六日)

麓早や葉桜なれば登り来し
そよ風の落花にまぎれ蝶よぎる
町遠く並びし飯場遅桜
風ありて山路しきりに花吹雪
花の坂見返る阿蘇に煙たつ
人まばら名残りの花の峠道
日和得て残花明るき山の句座
花屑や山に事故車の痛々し
トンネルの排土の山に花吹雪
花吹雪四囲よりうけて酌みかわす
刻のたつ程にうかれる花むしろ
舗装され恵まれ育つ若桜
ミキサー車ゆっくり曲る花吹雪
花びらを誘いて風の快よく
登り来て花の峠の大工事
風に乗り風吹くままの花の舞
杉襖背ナに花散るつばらをり
嘸りやトンネル工事着々と

肥後狂句 御神火会 三月例会入選句

やれ堪らず 下痢が独占するトイレ
泣くな、又来年もある受験
てれんばれん 目の離されん失対夫
天罰てき面 溺死しとった禁漁区
てれんばれん 種取り用に太る牛
天罰てき面 立小便がミミズ腫れ

住吉ながえ
松岡 信子
那須きぬ子
内田あや女
桐原 寿
林 久恵
古庄 泰子
岩下 扶美
山村ふみ子
浦塚 南天
林田 一声

漢詩

草部 今泉多美江(82)

惜春(町営住宅の桜を見て)

春 酣 桜 花 吹 雪 散
はるたけなわおう かふぶきとちり
はなのもとにわらわはんじつのきやくとなる

花 下 姿 半 日 客 成
しゆんしやういつくく あたいせん きん

春 宵 一 刻 価 千 金
しゆんしやういつくく あたいせん きん

可 可 天 人 共 春 惜
あ あ こん びと ともにはるをおしむ

短 歌
たたび髪に袂に散りかかる
八十一の春を花と惜しまん

津留 一万円
高森昭和 五千円
矢津田 二万円
野尻 三万円
色見山鳥 (松本満弘)
松本 雅安
(工藤シトエ)
工藤 敏昭
(井上次男)
井上ヤエ子
(菅 禎三)
菅 紀恵
(平田 茂)
平田 邦武

寄付

ありがとうございます

次の方々から心暖かいご寄付を高森町社会福祉協議会へいただきました。厚くお礼申しあげます。

【香典返し】

津留 一万円
高森昭和 五千円
矢津田 二万円
野尻 三万円
色見山鳥 (松本満弘)
松本 雅安
(工藤シトエ)
工藤 敏昭
(井上次男)
井上ヤエ子
(菅 禎三)
菅 紀恵
(平田 茂)
平田 邦武

おめでた おくやみ

出 生		39. 3. 16～49. 4. 15			
(住所)	(保護者)	(出生児)	(性別)	(生年月日)	
村 山	切原 達男	ひろみ	女	49. 3. 11	
大 村	勝木 千敏	敏洋	男	49. 3. 14	
横 町	葛城 明男	和美	女	49. 3. 18	
村 山	三森 幸喜	八代	女	49. 3. 24	
森	森山 哲治	友紀	男	49. 3. 26	
大 村	本田 征二	みゆき	女	49. 3. 28	
洗 川	本田 生一	寅雄	男	49. 4. 9	
森	丸山 訓告	訓弘	男	49. 3. 19	
旭 通	米光 昊	真	男	49. 3. 26	
永野原	甲斐 元紀	秀和	男	49. 3. 13	
矢津田	渡辺真佐末	くるみ	女	49. 3. 8	
芹 口	工藤 勲	照美	女	49. 4. 1	
津 留	中根 孝夫	留美	女	49. 3. 10	
河 原	下田 敏雄	拓也	男	49. 4. 4	

死 亡		49. 3. 16～49. 4. 15			
(住所)	(遺 族)	(続柄)	(死亡者)	(年令)	(死 亡 年 月 日)
小倉原	勝木 友盛	母	勝木 ミズ	88	49. 3. 16
大 村	本田 稼	妻	本田 トシエ	67	49. 3. 19
山 鳥	松本テルエ	夫	松本 満弘	82	49. 3. 20
昭 和	菅 紀恵	夫	菅 禎三	44	49. 3. 23
横 町	山邊ハツ子	夫	山邊 末壽	64	49. 4. 11
矢津田	本田トシエ	夫	本田 武茂	65	49. 3. 24
尾 下	甲斐 強	母の妹	甲斐ハナエ	66	49. 3. 16
野 尻	工藤 敏昭	母	工藤シトエ	72	49. 3. 21
津 留	平田キヨジュ	夫	平田 茂	71	49. 3. 27
河 原	吉良山盛雄	父	吉良山国太郎	72	49. 3. 30
津 留	瀬井 常助	養母	瀬井ナツエ	76	49. 4. 10

矢津田 (本田武茂)

河原 三万円 (吉良山国太郎)

高森旭通 二万円 (吉良山盛雄)

一万円 (西堀マツ)

【一般寄付】 西堀 文一

▽草部地区の地域集団電話加入者一同の皆さんから六千六百八十円。

▽色見の山室ツユさんと安方広光さんから、香典返しに、と中西老人クラブへ各五千円の寄付がありました。

【おわび】前号二頁の終わり「助産費支給額が一万から三万円」となっていましたが一萬から二万円」の誤りでした。おわびします